

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-76	小学校	算数	算数	第4学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
61 啓林館	算数 408 算数 409	わくわく算数 4上 わくわく算数 4下		

1 編修の基本方針

現在の社会では、グローバル化の進展や継続的な技術革新などにより急速な変化が進んでおり、その中では、様々な知識を整理・統合して理解する力が必要です。また、国際的な学力調査(PISA、TIMSSなど)の結果によると、算数・数学の学力は上位に位置していますが、引き続き学習意欲面では課題があります。

このような社会・時代での自立の基礎となる資質・能力を培う視点から、全国学力・学習状況調査等での結果も含めた学習の課題を踏まえ、次の3点を編修の基本方針としました。

① 生活していく上で、基礎となる数学的知識・技能を習得できる教科書

② 筋道を立てて考える能力を育て、ものごとを合理的に処理する力をつけることができる教科書

③ 新しいものごとを理解し、創造する能力と主体的に学習する態度を養うことができる教科書

さらに、「学びをつなげる」という視点で、教科書の素材・展開を見直し、主体的・対話的で深い学びが実現できるように工夫するとともに、学びやすく教えやすい教科書を目指しました。

① 生活していく上で、基礎となる数学的知識・技能を習得できる教科書

(1) 日常の事象や既習事項とのつながりから単元を導入

単元の初めに『単元とびら』を設定し、数学的活動を通して、日常の事象や既習事項とのつながりから学習が始められるようにしました。

(1p.10, 38, 下2, 20など)

『じゅんぴ』へのリンク

日常の事象

新しい学習
72÷3

1人分は何まいになるかな?

紙飛行機、お菓子、お茶会などの日常の場面が描かれています。

色紙が72まいあります。3人で同じ数ずつ分けると、1人分は何まいになりますか。

式 $72 \div 3 =$

わくわく算数 4上

3 1けたでわるわり算の筆算

① 2けたと①(1けた)の筆算

1 72÷3の計算のしかたを考えよう。

あゆみ ①を借りて、72÷3の計算のしかたを考えよう。

① 10の束7つを3人で分けると、7÷3=2あまり1。1人分は2束と、1束ある。

② あまった1束と2まいをあわせて2束い。

③ 2束いを3人で分けると、2÷3=0。1人分は4まい。

④ 1人分の色紙は、①の2束と③の4まいをあわせて、24まい。

$72 \div 3 =$ まい

わり算の答えを確かめよう。

1けたの数でわるわり算の筆算のしかたについて考えていこう。

38

(2) 基礎的・基本的な問題の充実

毎時の**1**のテーマの問題に対して、**1**の練習問題を適切な分量で設定しています。

また、単元途中に適宜『練習』、単元末に『たしかめよう』、各学期の中間、期末に『ふく習』、巻末に『じゅんび』、『もっと練習』のコーナーを設定し、基礎的・基本的な内容の理解と定着が確実に図れるようにしています。

(上p.24, 44, 140-157, 下p.18-19, 124-133など)

さらに、『ふく習』の問題のうち、**各種学力調査等**から判明したつまずきの多い学習内容には、★マークをつけ、間違いやすい問題だと意識して取り組めるようにしています。

ふく習

★まちがいがしやすい問題

数と計算

1 ① 43)86 ② 24)72 ③ 67)402

④ 95)394 ⑤ 58)406 ⑥ 14)70

⑦ 78)702 ⑧ 36)864 ★⑨ 27)560

★10 42)5208 ★11 81)3078 ★12 128)4096

下p.18

★10 42)5208

2 筋道を立てて考える能力を育て、ものごとを合理的に処理する力をつけることができる教科書

(1) 筋道を立てて考えたり、多様に考えたりする場面の充実

既習事項を振り返りながら、新しい概念を筋道立てて考えていけるような展開にしています。

また、**多様な考え方**に触れられる場面を充実させ、友だちの考えとつなげて考えたり、判断したりすることで、**主体的・対話的で深い学びが実現**できるようにしました。(上p.98-99, 128-129, 下p.26-27, 36など)

児童にとっては、自らの考えをもつきっかけや、説明、話し合いの見本となるように、教師にとっては、そのような授業の参考となるようにしています。

わくわく算数ノート

練習問題

右の形は、どこではかってもはさみで等しくなっています。右のような形を、ルーローの三角形といいます。

ルーローの三角形をつくって、たしかめてみましょう。

1 ルーローの三角形を、じっさいにつくってみましょう。

めあて 形をよくかきつけて、手順を考えてみましょう。

ミッション① 形について調べよう。

正三角形に内接する円は、辺が接点ではないね。

円に内接する形は、どこではかってもはさみで等しいよ。

角が3等しい。コンパスでかき分けよう。

ミッション② ルーローの三角形をつくろう。

説明

ルーローの三角形の作りかた

- 正三角形をかく。
- 右の図のように、角の1つの頂点を中心として、その長さを半径とする円の中心線をかき、残りの2つの頂点も同じように円の中心をコンパスでかく。
- コンパスでかいた3つの円が交わる部分にそって切る。

みんなで作ろう。同じ大きさのものをつくろう。

ミッション③ はばを調べよう。

みんなで作ったものが、同じ大きさの直線の間にありました。

ルーローの三角形は、自動車のエンジンやロボットアームなどに使われています。

ミッション④ ふりかえりのレポートをかこう。

ルーローの三角形のようにふしぎな形が、かんたんな手順でできて、びっくりしました。このようなふしぎな形がほかにもあるか、調べてみてください。

話し合い

上p.98-99

(2) 統合的、発展的に考察する力を育むノートのかき方

巻頭の『わくわく算数ノート』では、考えがよくわかるような**ノートのかき方**の例を示し、自らの学習を振り返ったり、まとめたりすることで、学習の定着を図る習慣がつけられるようにしました。(上p.8-9)

また、各単元末の『ふりかえろう』では、単元の学習を終えてわかったこと、できるようになったこと、もっとやってみようことなどをノートに整理する際の例を示し、**統合的、発展的に考察する力**が育めるようにもしています。(上p.25, 37, 下p.17, 31など)

『わくわく算数ノート』や『ふりかえろう』での活動が、自由研究などを**レポートにまとめる**ときにも役立つようにしています。

ふりかえろう

ぼうグラフは、多いか少ないかがわかりやすいグラフだったけれど、折れ線グラフは変わり方がわかりやすいグラフだとわかりました。グラフをかくときは、どちらのグラフがよいかを考えてかきたいと思います。

上p.37

③ 新しいものごとを理解し、創造する能力と主体的に学習する態度を養うことができる教科書

(1) 『めばえ』から『めあて』、『まとめ』へとつながる学習の流れ

児童が目的意識をもって主体的に学習を進められるように、学習の『めあて』を毎時間設定しています。

また、そのような新しい学習の『めあて』につながる考えや気づきを、この教科書では『学びのめばえ』と呼び、👤のマークをつけて強調し、適宜掲載しています。

さらに、『めあて』と対応する学習の『まとめ』を適宜掲載することで、児童にとっては毎時の学習の流れが、教師にとっては毎時の授業の流れがわかりやすくなるように工夫しました。

(上p.18-19, 93, 下p.4, 6-7など)

めばえ

めあて

まとめ

上p.93

(2) より主体的に学習を進めていける『自分の力で』

既に学習した方法と同じように考えを進めていける場面には、🌟のマークをつけ、児童が主体的に学習を進めていけるようにしています。(上p.45, 62)

めあて

まとめ

上p.45

(3) 児童の主体性を促すICTの活用

教科書紙面に、QRコードを掲載し、学習内容と関連する参考情報をスマートフォンやタブレットでデジタルコンテンツとして閲覧できるようにしました。(上p.10, 24, 72, 下p.2, 4, 16など)

単元の入口で学習に入る準備ができるものや、単元の出口で学習した内容の確認ができるものも用意し、家庭で主体的に学習する際の参考にもなるようにしています。


垂直な直線の引き方

①直線に三角じょうぎ①をあわせる。

②三角じょうぎ②を三角じょうぎ①にぴったりあわせて、直角をつくる。

上p.72

2 対照表

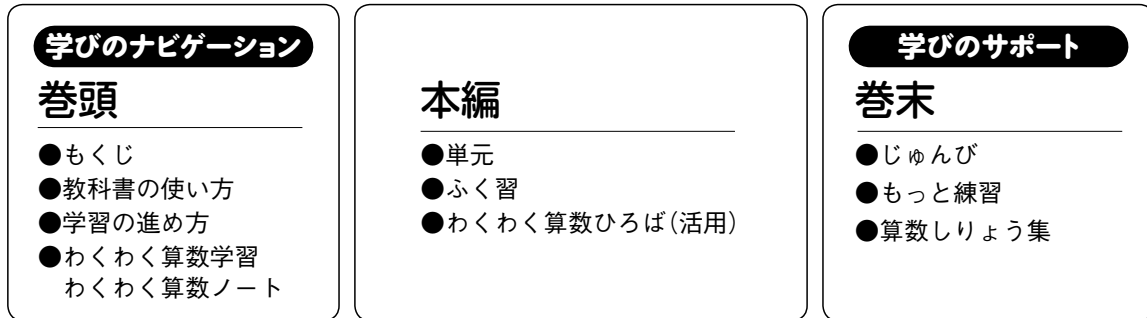
教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1号	<p>▶知識や教養を身につけ、真理を求める態度を養うという観点から、『教科書の使い方』、『学習の進め方』、『わくわく算数学習』、『わくわく算数ノート』を設定し、自ら進んで学習する態度を養えるようにしました。</p>	上 p.2-9, 下 p.1
幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	▶単元末に『やってみよう』のコーナーを設け、その単元で学習した内容を使って 真理を求める態度が養える ようにしました。	上 p.37, 64, 下 p.17, 31など
	▶学習内容に関連するコラムを設け、 幅広い知識と教養が身につけられる ようにしました。	上 p.47, 51, 下 p.99など
	▶児童が課題に取り組む際、自分で考えたり、発表したりするなど 自ら進んで学習に取り組める よう配慮しました。	全体
個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	▶児童主体の学びとなるように課題発見となるキャラクターの吹き出しに『めばえ』マーク  をつけました。	上 p.10, 11, 下 p.2, 3等多数
	▶売れた図鑑の数の題材や空港の手荷物預かり所の題材などを考えることで、職業との関連に気づき、 勤労を重んずる態度が養える ようにしました。	上 p.37, 96
	▶ 自他の敬愛と協力を重んずる ように『わかりやすく説明しよう 友だちの考えをよく聞こう』というコーナーを設けました。	上 p.158-159
正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	▶紙面デザインや配色にあたっては、個人差を問わず、より多くの人に必要な情報が伝わるよう配慮しました。	全体
	▶性別による役割を固定せず、児童一人ひとりが 他人を尊重しながら、互いに協力し、学習を進めていける よう配慮しました。	上 p.11-13, 下 p.12など全体
	▶赤ちゃんの体重の変化を調べることやイルカとクジラの生まれたときの体長と今の体長を比べることを通して、 生命を尊ぶ態度が養える ようにしています。	上 p.36, 118
生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	▶リサイクルに関する題材を取り上げ、環境の保全に寄与する態度が養えるようにしました。	下 p.110-113
	▶外国のおうぎや東京に対するシドニーの気温、外国のわり算の筆算や外国の観光客の数を取り上げ、 伝統と文化、他国を尊重する態度が養える ようにしています。	上 p.10, 34, 51, 下 p.69
伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	▶江戸時代の「塵劫記」の話題や、「数のたんじょうとそるばん」を取り上げ、 我が国の伝統と文化を尊重する態度が養える ようにしました。	上 p.65, 138

3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

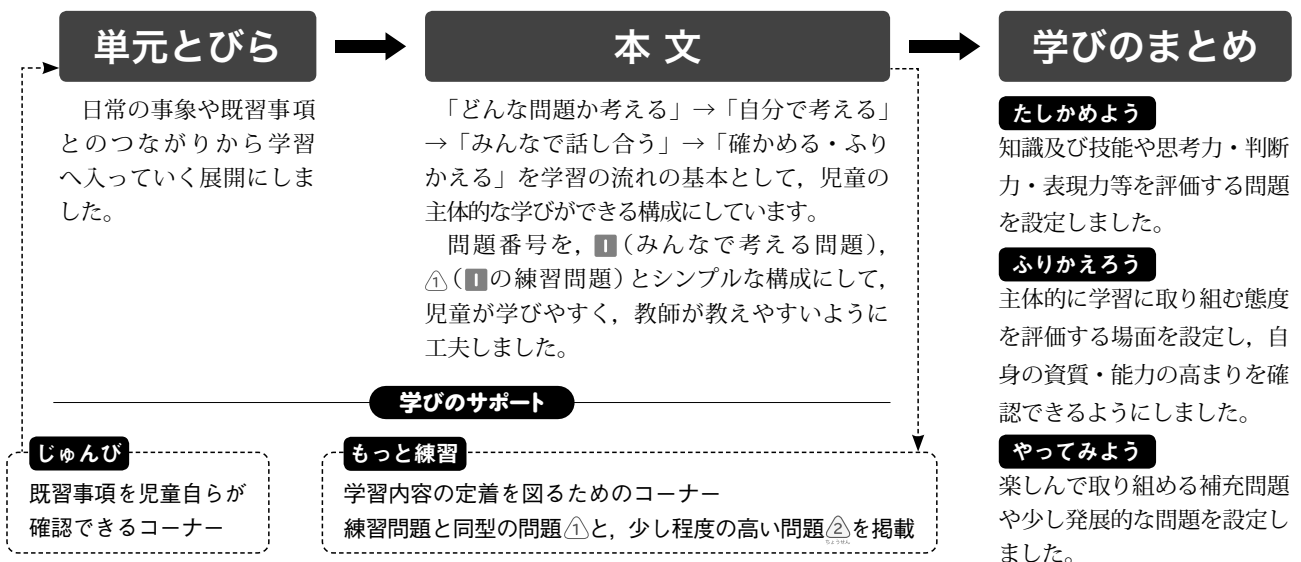
児童にとって学びやすく、教師にとって教えやすい教科書の構成、単元の流れにしました。

教科書の構成

『巻頭』、『本編』、『巻末』の3部構成で、『巻頭』を学びのナビゲーション、『巻末』を学びのサポートと位置づけて構成しています。



単元の流れ



巻頭、巻末

○『わくわく算数学習』: 第1時に配置して、1年間の学習に取り組む態度が養えるようにしています。

○『算数しりょう集』: 『わかりやすく説明しよう 友だちの考えをよく聞こう』、『図のかき方』、『算数でよく使う考え方』、『たしかめようの答え』、『じゅんびの答え』、『もっと練習の答え』、『4年上のまとめ』、『4年下のまとめ』、『さくいん』、『切り取り教具』といった、様々な学習の場面で役立つ資料を掲載しています。

指導書

教科書をより有効にご活用いただくための資料として、朱註、解説書を用意しています。

朱註では、教科書本文の縮版を見ながら、指導の要点や補足事項などがわかるようにしています。

解説書では、より詳しい指導上の留意点を補足し、授業の準備などで活用できる内容を掲載しています。

また、授業案や板書案なども用意し、授業計画立案の資料としても利用できるようにしています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

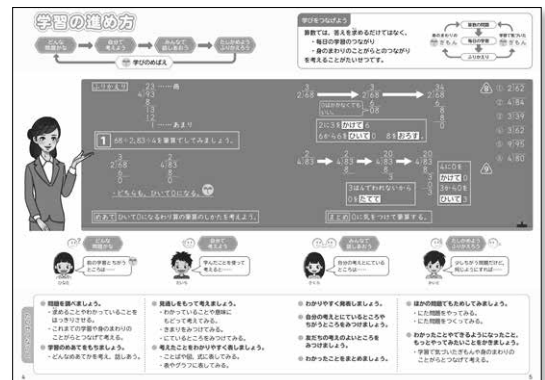
受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-76	小学校	算数	算数	第4学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
61 啓林館	算数 408 算数 409	わくわく算数 4上 わくわく算数 4下		

1 編修上特に意を用いた点や特色

① 多様なカリキュラムへの対応(カリキュラム・マネジメント)

(1) 学び方を身につける巻頭の『学習の進め方』

巻頭の『学習の進め方』では、児童も教師も見通しをもって、学習を進めていくことができるように、算数を「どのように学ぶのか」をわかりやすく説明しています。(Up.45, 下p.1)



Up.4-5

(2) 学んだことを活用する学期末の『わくわく算数ひろば』

日常の事象や既習事項について、学んだことを活用して問題を解決する内容を、『わくわく算数ひろば』として学期末にあたる場所にまとめて配置しました。これらのコーナーを関連する単元の直後などで扱うことで、多様なカリキュラムを編成することもできます。(Up.98-101『算数ラボ』, 『算数の自由研究』, 下p.54-57『見積もりを使って』, 『どんな計算になるのかな』, 下108-113『だれでしょう』, 『みらいへのつばさ』)

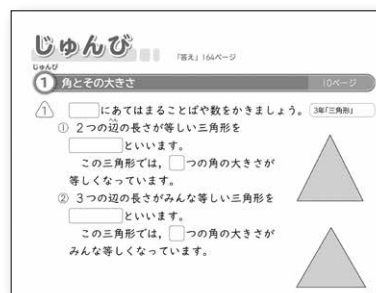
(3) 短時間学習にも対応し、知識・技能の定着が図れる『練習』, 『ふく習』

『練習』や『ふく習』は、3つのブロックに分けて構成し、短時間学習で取り扱うこともできるようにしています。(Up.44, 52-53, 下p.39, 58-59など)

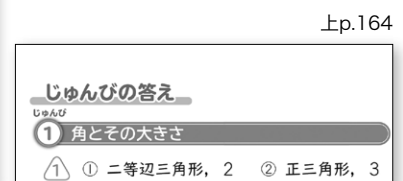
(4) 児童の主体的な学習を促し、家庭学習でも取り組める『学びのサポート』

巻末には、配当時数外のコーナーとして、『学びのサポート』(『じゅんび』, 『もっと練習』, 『算数しりょう集』)を用意しています。『じゅんび』は単元の学習に関する既習事項を見童自らが確認できるように、『もっと練習』は単元の学習内容の定着を図ることができるようにしています。(Up.139-173, 下p.119-142)

さらに、『算数しりょう集』には、『たしかめよう』, 『じゅんび』, 『もっと練習』の解答をつけ、児童の主体的な学習を促し、家庭学習でも取り組めるようにしています。



Up.140

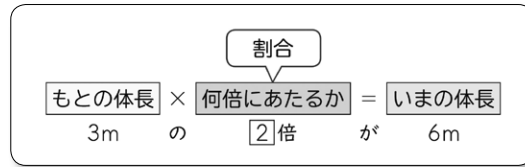


Up.164

② 学年の特色, つまづきの多い箇所への対応

(1) 「割合」(Up.118-123)

理解が困難とされている「割合」の系統を見直し, 第4学年としては, **倍関係の理解**が図れるようにし, 第5学年の学習へのつながりがスムーズになるようにしました。



8 割合

1 割合

イルカとクジラについて, それぞれ, もとの体長の何倍が, いまの体長になっているか比べてみましょう。

イルカ	クジラ
もとの体長 1m	もとの体長 3m
いまの体長 4m	いまの体長 6m

イルカ \square 倍 クジラ \square 倍

$4 \div 1 = \square$ 倍 $6 \div 3 = \square$ 倍

割合

もとの体長 \times 何倍にあたるか = いまの体長

3m の 2倍 が 6m

「3mの2倍が6m」というのは, 「3mを1としたとき, 6mが2にあたる大きさ」といえることができます。

算数しりょう集 図のかき方 160ページ 119

Up.119

(2) 「折れ線グラフ」(Up.26-37)

理科の学習で使えるように, 「折れ線グラフ」の指導時期を早め, 第2単元に配置しました。

また, Up.34-35では, 折れ線グラフの活用として, 2つのことがらを表す場面を設け, 2つの折れ線グラフや, 折れ線グラフと棒グラフを1つのグラフに表すことができるようにしています。

(3) 「わり算の筆算」(Up.38-51, 104-117)

わり算の筆算の手順を, ダイナミックな紙面で表し, そのアルゴリズムがわかりやすくなるように工夫しました。「たてる」→「かける」→「ひく」→「おろす」が一連の手順であることを示したり, 最後に「おろすものがなくなるとおわり」という吹き出しを入れたりするなど, プログラミング的思考の素地にもなるようにしています。

① 10の葉7つを3人で分けると, $7 \div 3 = 2$ あまり1
1人分は2束で, 1束あまる。

② あまった1束と2まいをあわせて12まい。

③ 12まいを3人で分けると, $12 \div 3 = 4$
1人分は4まい。

④ 1人分の色紙は, ①の2束と③の4まいをあわせて, 24まい。

筆算のしかた

たてる → かける → ひく → おろす

2をたてて 三二が6 ひいて1 2をおろして12

4をたてて 三四12 ひいて0 おろすものがなくなると, おわり。

Up.40-41

③ 算数の有用性の実感

単元の学習場面での『学びをいかそう』



学びをいかそう

『わくわく算数ひろば』, 『やってみよう』といったコーナー以外にも, 身のまわりにある算数を見つけたり, 身のまわりの問題に算数を活用したりする題材を取り扱って, 算数を学ぶ意義が感じられるようにしました。(Up.33, 69, 下p.12, 25など)

◆観点別特色

観点	留意点	該当箇所
教育基本法、 学習指導要領の 遵守	▶教育基本法に示された教育の目標を踏まえた編集方針としています。	全体
	▶小学校算数の学習指導要領に沿った配列、内容・構成にしています。	
主体的・対話的で 深い学び	▶ 児童主体の学び となるように、課題発見となる子どもの考えや気づきを『学びのめばえ』として取り上げました。	上 p.10, 11, 下 p.2, 3など
	▶ 多様な考え方を 充実させ、話し合いの場面も適宜設定することで、主体的・対話的で深い学びが実現できるようにしました。	上 p.98-99, 116, 下 p.35, 66-67など
	▶既に学習した方法と同じように考えを進めていける場面には『自分の力で』というマークをつけ、児童が主体的に学習を進めていけるようにしています。	上 p.45, 62 
基礎・基本の定着	▶ 全国学力・学習状況調査等 の調査で、課題とされている内容について、ページを増やして展開したり、図や説明をていねいにしたりして、理解が図れるようにしました。	上 p.37(折れ線グラフの読み取り)、52-53(ふく習)、 118-123(割合)、 下 p.70-71(二次元表)など
	▶巻末の『じゅんぴ』には、単元の学習に関する既習事項を、児童自らが確認できるようにしています。	上 p.140-143, 下 p.120-123
	▶巻末の『もっと練習』には、本文の練習問題と同型の問題(①)と少し程度の高い問題(②)をおき、学習内容の定着が図れるようにしました。 習熟度別学習 でも使えるようになっています。	上 p.144-157, 下 p.124-133
	▶『練習』、『ふく習』を適切に配置し、 基礎・基本の定着 が図れるようにしています。また、それぞれ3つのブロックに分けて構成し、短時間学習で取り扱うこともできるようにしています。	上 p.44, 52-53, 下 p.49, 58-59など
学びの見直し・ 振り返り	▶目次では、各単元に関連する既習の単元を、それを学習する学年とあわせて提示し、学びのつながりがわかるようにしています。	上下 表紙裏-p.1
	▶児童が目的意識をもって主体的に学習を進められるように、学習の『めあて』を毎時間設定しています。また、学習の『めあて』につながる考えや気づきとなる『学びのめばえ』を適宜掲載しています。さらに、『めあて』と対応する学習の『まとめ』を適宜掲載することで、学習の流れがわかりやすくなるように工夫しました。	上 p.18-19, 70-71, 下 p.4-5, 6-7など
	▶単元末には『ふりかえろう』を設定し、単元の学習を終えてわかったこと、できるようになったこと、もっとやってみようことなどをノートに整理する際の例を示し、 統合的、発展的に考察する力 が育めるようにしています。	上 p.25, 37, 下 p.31, 83など
	▶『4年上のまとめ』、『4年下のまとめ』で学習内容の重要事項をまとめ、児童自身で学習内容を振り返りやすいようにしています。	上 p.166-167, 下 p.140-141
資質・能力の 育成と 学力向上	▶単元末の『たしかめよう』では、 思考力・判断力・表現力等 を問う問題も設定しました。また、『やってみよう』で、思考力のさらなる育成を目指しました。	上 p.36-37, 63-64, 下 p.16-17, 30-31など
	▶『ふりかえろう』では、何がわかったか、何ができるようになったかなどを振り返って、児童自身の資質・能力の向上を確認できるようにしました。 (学びに向かう力・人間性等)	上 p.25, 37, 下 p.31, 83など
	▶『練習』、『ふく習』でも、適宜 思考力・判断力・表現力等 を問う問題を用意しています。	上 p.44, 52-53, 下 p.39, 58-59など
評価	▶単元末の『たしかめよう』、『ふりかえろう』、『やってみよう』を利用して、児童自身の 自己評価や相互評価 などができるようにしています。	上 p.36-37, 63-64, 下 p.16-17, 30-31など
分量、 内容・配列	▶年間配当時数は、160時間とし、標準時数(175時間)よりも余裕をもたせた分量で構成しています。	全体
	▶内容の系統性とあわせて、指導時期や各領域のバランスも考慮した配列にしています。	
教科の有用性	▶算数の授業の中だけでなく、学校生活や家庭、地域を学びの場とする活動を設定しました。	上 p.122, 下 p.31, 56-57, 69など
	▶『学びをいかそう』では、身のまわりにある算数を見つけたり、身のまわりの問題に算数を活用したりして、算数を学ぶ意義が感じられるようにしました。	上 p.33, 37, 100-101, 下 p.12, 56-57, 69など
数学的な見方・ 考え方	▶「子どもの考え」の事例や「吹き出し」、単元末の『ふりかえろう』で、ものごとの特徴や本質をとらえる視点や、学習した内容を統合的、発展的にとらえることなどを示しています。	上 p.25, 57, 92, 下 p.31, 36, 83など
数学的活動の 充実	▶『単元とびら』では、日常の事象や既習事項から問題を見いだすような場面にし、それらを解決していくようにしています。	上 p.38, 66, 下 p.20, 60など
	▶『学びをいかそう』では、日常の事象や算数の学習場面から見いだした問題を解決する活動を取り入れています。	上 p.64, 100-101, 下 p.53, 54-55, 66-67など
	▶課題に対して、自分の考えを説明したり、複数の考え方について、数学的に表現し伝え合う場面を適宜設定しています。	上 p.6-7, 98-99, 下 p.36, 66-67など

観点	留意点	該当箇所
言語能力の育成・ 言語活動の充実	▶『算数しりょう集』の『わかりやすく説明しよう 友だちの考えをよく聞こう』では、説明したり、友だちの考えを聞いたりするときのポイントを示しています。	上 p.158-159
	▶自分の考えを説明したり、複数の考え方を提示し、それらについて話し合ったりする場面を適宜設定し、言語活動が充実するよう工夫しています。	上 p.6-7, 128-129, 下 p.36, 79など
他教科との関連	▶理科との関連として、「折れ線グラフ」の指導時期を早めて、第2単元に配置しました。また、気温のはかり方やグラフのかき方を、理科の学習と連動するように工夫しました。	上 p.26-37
	▶道徳科との関連として、説明する場面や、話し合いの場面を設け、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分と異なる意見や立場も尊重できるようにしています。	上 p.35, 128-129, 下 p.26-27など
	▶社会科との関連として、世界の国々の人口や、ごみの処理の題材を取り上げました。	上 p.54, 下 p.110-113
家庭学習・ 自学自習への 対応	▶『じゅんぴ』、『もっと練習』は巻末の『算数しりょう集』に解答をつけ、家庭学習や自学自習で取り組むこともできるようにしています。	上 p.140-157, 164-165, 下 p.120-133, 138-139
	▶「保護者の方へ」を裏表紙に掲載し、家庭との連携を促しています。	裏表紙
カリキュラム・ マネジメント	▶『じゅんぴ』では、単元の学習に関する既習事項を、児童自らが確認できるようにしました。	上 p.140-143, 下 p.120-123
	▶『練習』『ふく習』は3つのブロックに分けて構成し、短時間学習にも対応できるようにしました。	上 p.44, 52-53 下 p.18-19, 39など
	▶各学期に予備時数を設け、多様なカリキュラムに対応しやすくしました。また、活用コーナーを『わくわく算数ひろば』として学期末に取り扱えるようにしました。	上 p.98-101, 下 p.54-57, 108-113
今日的な 課題への対応	▶気温と降水量の関係を考える題材や空き缶を拾う題材、ごみ処理の題材を取り上げて、環境教育、ESDへとつながるように配慮しました。	上 p.35, 下 p.54, 110-113
特別支援, ユニバーサル デザインへの対応	▶特別支援教育の専門家の監修のもと、すべての子どもたちが支障なく学習できる環境づくりを目指し、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育(共育)に配慮しました。	全体
	▶温かみのある優しい色使いで、シンプルなデザインにしました。MUD協会による検証を受けています。	
	▶フォントは識別がしやすい書体(UD書体)を採用しました。	
	▶文章を理解しやすいように、意味改行をしています。	
	*デジタル教科書や拡大教科書を用意し、子どもたちの様々な学習の仕方にも対応できるようにしています。	
人権、福祉、 国際理解、 ジェンダー	▶子どもの写真やイラストについては、性別による役割を固定することなどなく、互いに協力しながら活動できるよう、性別・人種などについても十分配慮しています。	上 p.11-13, 下 p.12など全体
家庭や地域との 連携	▶巻末の『学びのサポート』では、家庭学習でも取り組めるような問題を用意しています。	上 p.139-173, 下 p.119-142
	▶裏表紙には、保護者に向けたメッセージを掲載しています。	裏表紙
プログラミング 学習	▶プログラミング的思考が育めるような内容について、その初出場面にマークをつけ、意識できるようにしました。	上 p.40-41 
ICTの活用	▶調べたり、表にかいたりするのにコンピュータを用いてもよいことを示唆し、コンピュータの利用を促すようにしました。	下 p.67
	▶ICTが有効な場面では紙面にQRコードを掲載し、ICT機器の利用により、学習の助けになる動画、補充問題等の参考情報を参照できるようにしました。特に、単元の入口では、『じゅんぴ』に関する情報を、単元の出口には、『たしかめよう』に関する情報を用意しています。 *QRコード対応機器以外でもデジタル教材を活用できるように裏表紙にURLを記載しました。	上 p.10, 14, 24 下 p.2, 4, 16など
印刷・用紙・製本	▶開きやすく、紙面が広く見えて書き込み等の作業がしやすい「あじろ綴じ」製本形式を用い、軽くて印刷が鮮明な用紙を採用しました。	
	▶学習において操作活動が有効に働く場面では、巻末に切り取り教具を用意しました。特に、何度も利用する分度器については、予備用のものも用意しています。	
	▶再生紙と植物油インキを使用し、環境やアレルギーにも配慮しました。	

2 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
上 巻	★わくわく算数学習	第2(1) A(3)ア(ア)(イ)	p.6-9	1
	1. 角とその大きさ	B(5)ア(ア)(イ) イ(ア)	p.10-25	8
	2. 折れ線グラフ	C(1)ア(ア) イ(ア) D(1)ア(イ) イ(ア) 内(10)	p.26-37	6
	3. 1けたでわるわり算の筆算	A(3)ア(ア)(イ)(ウ) イ(ア) 内(2)(3)	p.38-51	10
	*ふく習	内(3) 第1(2)	p.52-53	1
	4. 一億をこえる数	A(1)ア(ア) イ(ア) 内(1)	p.54-65	8
	5. 垂直・平行と四角形	B(1)ア(ア)(イ) イ(ア) 内(7)	p.66-85	14
	6. 小数	A(4)ア(イ)(ウ)	p.86-97	9
	◎算数ラボ	第2(1)	p.98-99	1
	◎算数の自由研究	第2(1)	p.100-101	1
	*ふく習	第1(2)	p.102-103	1
	7. 2けたでわるわり算の筆算	A(3)ア(ア)(イ)(エ) イ(ア) 内(4)	p.104-117	11
	8. 割合	C(2)ア(ア) イ(ア) 第2(1)	p.118-123	4
	9. 式と計算の順じょ	A(6)ア(ア) イ(ア) (7)ア(ア) イ(ア) 内(3)(6)	p.124-135	8
	◎そろばん	A(8)ア(ア) イ(ア)	p.136-138	1
	★学びのサポート	第1(2) 2(1)(3)	p.139-173	—
下 巻	10. 面積	A(6)ア(イ) イ(ア) B(4)ア(ア)(イ) イ(ア) 内(8)	p.2-17	10
	*ふく習	内(3) 第1(2)	p.18-19	1
	11. がい数とその計算	A(2)ア(ア)(イ)(ウ) イ(ア) 内(2)	p.20-31	8
	◎図を使って考えよう	第2(1)	p.32-33	2
	12. 小数のかけ算やわり算	A(4)ア(ア)(エ) イ(ア) 内(5)	p.34-53	16
	◎見積もりを使って	第2(1)(5)	p.54-55	1
	◎どんな計算になるのかな	第2(1)	p.56-57	1
	*ふく習	第1(2)	p.58-59	1
	13. 調べ方と整理のしかた	D(1)ア(ア) イ(ア) 内(9)	p.60-69	4
	◎表を使って考えよう	D(1)ア(ア) 第2(1)	p.70-71	1
	14. 分数	A(5)ア(ア)(イ) イ(ア)	p.72-83	7
	*ふく習	第1(2)	p.84-85	1
	15. 変わり方	A(6)ア(ウ) C(1)ア(ア) イ(ア)	p.86-93	6
	16. 直方体と立方体	B(2)ア(ア)(イ)(ウ) イ(ア) (3)ア(ア) イ(ア)	p.94-107	11
	◎だれでしょう	第2(1)	p.108-109	1
	◎みらいへのつばさ	第2(1)	p.110-113	2
	*もうすぐ5年生	第1(2)	p.114-118	3
	★学びのサポート	第1(2) 2(1)(3)	p.119-142	—
				標準時数175
			(予備時数)	(15)

記号の意味:

◎…活用・問題解決のページ ★…特設ページ

内…内容の取扱い 第3…第3 指導計画の作成と内容の取扱い

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-76	小学校	算数	算数	第4学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
61 啓林館	算数 408 算数 409	わくわく算数 4上 わくわく算数 4下		

ページ	記 述	類 型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
上65	兆より大きな数の位	2	A(1)ア(ア) (一億をこえる数の学習に関連して、 兆より大きな数の位を簡単に扱います。)	0.25
下83	学びをいかそう やってみよう	1	A(5)ア(ア) (簡単な場合について、大きさの等しい分数があることを 知ることに関連して、時計を利用して、同じ大きさの 分数の複数の表し方を扱います。)	0.75
合 計				1

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容(隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む)とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容